

発行所  
燎原社

〒606 京都市左京区  
東竹屋町・川端入る  
部落問題研究所内  
電話 京都 761-2141番  
振替口座京都 15762番  
発行人  
木村 京太郎  
頒価 1部 200円  
年 2,000円(元共)

# 明るい暮らし、幸せな未来を

## 新成人とともに

### みんなの力で世直しを

この一月十五日の「成人の日」を迎えて京都では四万人の新成人が誕生したという。まことに頼もしい限りである。みんなで祝福するとともに拍手をおくり大きな期待をよせてやまない。

しかし近頃の世相は新聞見ても殺人、強盗、火災の記事が多くなっているが、昔から火つけ、強盗、人殺しは大罪とされ、その数が少なければ民は平和で幸福であり、その数が多ければ政治がよくないとされ為政者の責任が問われたという。この頃ではテレビで「遠山の金さん」や水戸黄門を見ながらこんな政治家やお役人がたくさんでてくれたらと思いつながらストレスを解消している人も少なくないという。

新成人の皆さん。自分自身の暮らしや仕事や商売をまるためにも先づ体と腕と頭をきたえしっかりと生き抜いて欲しい。そしてみんなで腕を組んで世直しをはかりたいものである。

### 昭和三十五年は曲り角

申すまでもないが今年成人式を迎えた人は昭和三十五年（一九六〇年）の生れである。昭和三十五年と云えばいろいろ出来事の多い年であった。日本では新安保反対斗争、三池斗争、浅沼社会党員長暗殺があり、京都では安丸の竣工などは明るい話題であった。

燎原の発行も一年を迎えた。云わば

その一節を紹介したい。  
「今企てられている新安保条約批准の强行は、今までのなしとげの民主主義の否定から一步進んで、日本の将来を再び軍国主義による政治の復活を意図するものであり、この結果は労働者、国民に対する激しい合理化と弾圧、

政治的権利の剥奪が急速度にすすめられ、和平と民主主義は、すべて破壊されることは自明の理である。」と宣言されており、歴史に残るものであろう。

燎原とは、枯野原を焼くこと、その勢いは盛んで防ぎ止めることが出来ない。その有様を形容して使われる中国の古語に、星々の火をもつて焼く（可以燎原）と例う。惡の芽は二葉のうちで摘まないと手の施こせない大きなものとなる」の意。

中国の毛沢東は之を逆用して「一点点の火花も野原を焼きつくす」と民衆の蜂起、叛乱を鼓舞する積極的な意義を使用した。（広辞林と、日中友好新聞一九八〇年一月三日号・中国言葉の散歩）による。

題字は住谷悦治先生の筆、バックは品角一郎氏の画です。

成人である。これも会員誌友のご支援、ご協力あってのことである。一月例会のゲストも戦前戦後をつなぐ運動家であり、京都府の労働部長の経験のある井家上専さんを招き、二、一スト、政令二〇一号、レッドページや民主戦線統一会議の結成から、高山市長、嵯川知事の誕生へと進んだ敗戦から朝鮮動乱までの五年間の話題に花が咲いたが、敗戦から朝鮮動乱高度成長政策から現代の曲り角に立つていると云えよう。

日本の顔、世界の京都には千年の歴史の中に暮らしが生きている。応仁の第三十五回統一メーデーは京都府下十二の会場で約五万五千の働くものが集り盛大に行われた。そのうち京都市内は二条城前で開かれ実行委員長は当時京教組委員長の糸井一さん、議長団は前府医師会長の長嶋三郎さんなど十二名の名があげられた。会場のスローガンは、「新安保条約批准阻止、岸内閣打倒、大幅賃上げなどが目立つていたが、當時採択された宣言文が当時の働くものの意識を物語つてゐるので、その一節を紹介したい。

# 1981年を迎えて！ (年賀だより)

東京 谷村直雄

恭賀新禧、年初に当り、御一同様の御多幸を祈上げます。社会進歩は月日に新たですが、どこまでも人類の繁栄と平和の推進されることを希求いたします。

(渋谷区代々木三一四一一三  
弁護士)

東京 福島正夫

賀正、昨年一月下旬より二週間

第一回日ソ法学者シンポジウムをソ連(モスクワおよびタシュケント)で開き、「社会の発展における法の役割」の共通論題のもと、日ソ各七名の報告と、多数の参会者を含めた討論で成功を収めました。本年は日本で第二回を開こうと思います。よろしくおねがい申上げます。

(世田谷区南烏山二丁目、三一  
二七一三一八)

東京 森長英三郎

賀正通信(三号)、毎年賀状はこれが最後だと思いつつ書いてきました。といふ意味ではなく、国家や社会の束縛をたち切って、自由に生きてみたいと夢みるからです。本業のはうは法律相談だけにとどめたことから、その方向に向っていますが、生來の愚鈍は年を重ねてもおらないことがわかり、健康も三里の道を歩くのに、はあるあとうようでは、なかなかかそその条件はそろいません。あせらな

で、走らず止まらず歩くだけです。皆様は御達者で!。

(新宿区大京町二番地・弁護士)

東京 松本一三、ヨキ子

賀春、大兄のご健康を心から祈ります。大兄が仰せのごとく、わたしたち老夫婦も、いたわりあいながら、ことしも反戦平和のために、たたかいます。(清瀬市竹丘2  
18—30—4)

東京 五十嵐元三郎・保子

賀正、明治自由民憲運動百周年を迎え、大正デモクラシーで目を覚ました。反戦・平和を一因に生きて、やつとその源流に辿りつき、(小平市中島町一八一八六)

東京 土井大助

ともかくもよい年を念じて乾杯! ともうしあげます。

(多摩川水害訴訟はなお東京高裁で争訟中。拙作「嵐の中の赤いバラ」山本宣治)(二幕一七場、西口克己監修・永井智雄演出)が、今年早々から各地で上演されます。などよろしく。(狹江市緒方一〇四七一六一)

東京 森山四郎・良子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。今年は一九五七年一月に第十回解放運動犠牲者合葬追悼会の事務局を担当するため、国民救援会に籍を置いて以来、二十四年になりました。

埼玉 小林輝次・芳江

謹賀新年・御多幸を祈ります。京都もあなたが行かれてからも変わったことでしょうが、私の居つたところにあります。

長野 田中策三

一九八一年の元旦おめでとうございます。私もおかげでとし五月には八十回目の誕生日を迎えます。

第二十九回三、一八のオルグの途次脳血栓で倒れて以来五年、この間皆様からの物心両面の温かいお励しによって、救援といはずえ運動の中で不十分乍ら再起専念いたすことができました。

本来ならば快気のご挨拶にお伺い致すべきところですが、昨年末、皆様への感謝の気持ち、救援会及びいしづえ会の運動資金として、僅かですが寄附させて頂き、心の一つの区切りと致し、新年と共に氣分を新たに皆様と共に歩みたいと念願いたしております。

晴天に恵まれた元日、青山の解放運動無名戦士の墓に初詣でしたし、末娘一家孫たち共ども六名で、持参の多摩の水と花などお供えして、戦士への感謝と追悼を捧げ、新しい年の解放運動の前進を祈念いたしました。

今年もまた多端な年のようにですが、平和の中に健康で頑張りたいものです。

千葉 島上善五郎

私は昨年十一月日中友好訪問団長として十二日間訪中して参りました。が、百聞一見に如かず大変勉強になりました。

お互いに今年も元気でがんばりましょう。(流山市向小金新田三七八金柏パークハウスA四〇二号)

最近の国民の社会科学離れで、『労働運動史研究』が休刊の止むなきに至っております。折角のお話も発展できいであります。

(大宮市仲町三一〇二)

埼玉 松尾洋

ごぶさたいたしております。

(蕨市南町二丁目二七一)

# 1981年を迎えて！ (年賀だより)

これからも、平和、自由、民主主義の日本建設のために、一臂の力をつくしたいつもりです。よろしく御指導御鞭撻下さるようお願ひ致します。

(長野市三輪五十九一一〇六)

京都 河田 賢治

謹賀新年  
昨年二月、日本共産党第十五回大会で中央幹部を、全年七月には国會議員を辞しました。

在職中はほんとに御世話になりました。今後とも日本の平和・民主・国民生活向上・社会改革一めざし、終生の事業として微力をつくしたいと思っています。

(左京区修学院山ノ鼻町二)

頌春  
志を立て日本脱出を決行した新島襄の話を、私は中学生時代にぼんやり聞いていた記憶があります。昨夏、同志社卒業生有志の好意と志によって、ようやく訪米の機会をえたえられ、一四年前ボストン港にたどりついた青年新島の姿を目の前に思いうかべ、強い感動を受けました。(左京区下鴨川原町四六)

大阪 須藤 五郎

明けましておめでとうござります。お笑いはじめに私の年頭所感をお書きたい。創りたい、そのためにはまだ三十年は生きねばならぬ。

こりやえらいこつちや。よろしく。  
(八十三才、豊中市螢ヶ池中町一の八)

大阪 武田 大蔵・とよ

迎春 いつそう元気で頑張つてください。元氣で頑張つてください。初心貫徹をめざして頑固に進むといふことはたいへん貴重だと思ひます。私どもも頑固に進みたいと誓っています。

(平野区加美南五—12—20)

大阪 野村 利之・順栄

迎春、平素の疎遠をお詫び申し上げ、皆様のご健康と、御多幸を心から祈念いたします。

旧年中は国の内外ともに重大なできごとが相つき、まさに激動の一 年間でした。とりわけ朝鮮戦争当時に次いで、戦後第二の反動攻勢の時期といわれているだけに、革新統一と団結が重要となつています。

大阪 大阪 大前 哲彦・玲子

大坂の地は革新統一の政治勢力も、統一労組懇も全国の牽引車的役割を果しています。今年もまた、その中の一つの歯車として活動し、最高裁での大東水害訴訟に三度住民側が全面勝利して、水害ニッポンをなくするよう力を注ぎたいと思います。

皆様方と一緒に精一杯がんばりますのでよろしくお願ひします。

(交野市藤が尾四丁目一四一一二)

大阪 大前 哲彦・玲子

コケコッコーな一年を！  
(前略) 七〇年代は各分野、各自

でそれぞれの課題を摸索してきましたが、それはお許下さい。日本における初期労働運動、共産主義運動の数少ない一人として、いつまでも長寿をさらににうしていただきたいです。(神戸市長田区五位の池町二丁目一の三、市住三五三号)

滋賀 谷 茂夫・マサ子

明けましておめでとうございます。皆様お健かに新春をお迎えのことと存じます。我家も全員健かに八年十一年もスタートします。

憲法改正や軍備増強、右翼の動きなど、政治の反動化、軍国主義日本への道にもつて行こうとする策謀が強まっています。戦争への道はゴメンです。平和・民主日本の前進のために頑張ります。どうか、よろしく、御指導、御鞭撻のほどお願い申上げます。

(大津市真野普門町三四四の二)

兵庫 小嶋 克己

謹賀新年、大兄は私よりは年上だと思いますが、仲々お元気ですね。

いつまでも世界人類解放のため闘って下さい。私もお供さして頂きます。私は百才までまだ二十五年あります。どこまでやれるか余生を捧げるつもりです。一層の御健闘を祈ります。

兵庫 古森 茂

賀正、昨年は北陸路の同行、楽しい出としてのこりました。ときどき先輩にくつてかかったこと

もありましたが、それはお許下さい。日本における初期労働運動、共産主義運動の数少ない一人として、いつまでも長寿をさらににうしていただきたいです。(神戸市長田区五位の池町二丁目一の三、市住三五三号)

滋賀 谷 茂夫・マサ子

明けましておめでとうございます。皆様お健かに新春をお迎えのことと存じます。我家も全員健かに八年十一年もスタートします。

憲法改正や軍備増強、右翼の動きなど、政治の反動化、軍国主義日本への道にもつて行こうとする策謀が強まっています。戦争への道はゴメンです。平和・民主日本の前進のために頑張ります。どうか、よろしく、御指導、御鞭撻のほどお願い申上げます。

(大津市真野普門町三四四の二)

東京 生活と健康を守る 全国連合会

新春のお慶びを申上げます。

鈴木内閣は軍備拡張、大増税政策、福祉と教育、生活など暮らしにかかる制度の全面改悪を強行しようとしています。それは低所得者、老人障害者、婦人をはじめ、国民の生きる権利をふみにじるものです。

くらしと福祉を守つて二十六年、さらには運動を発展させるために奮闘する決意です。いつそこの指導とご支援のほど心からお願ひ致します。

(新宿区新宿一丁目五—五)



が手刷りではあるが出だした。それから各中央委員も細胞に所属すること、経営に細胞の基礎をおくことなどが強調された。

日本共産党の出発点は廿七年ティー七にもとづいて可成り基礎ができてきたといえる。この年は日本で初めての普選挙で、共産党系の労農党から山川水長が当選し、共産党も堂々と名のりあげ北海道で山懸、九州では徳球が立候補した。落選はしたけれども、警察でも放つておけぬということになり、三・一五の一斉選挙になつた。

そこにゆく前に総同盟は分裂し、全国に評議会がつくられ、北海道から九州まで地方的に連合会ができる。

このとき総同盟は三万、評議会は一万五、六千名で、総同盟の約半分だつた。共産党は熱心に評議会を援助した。これの代表的なのが浜松の楽器争議で、なぜあのような闘いができたかといえば「レフト」の組織をつくったからだといえよう。工場の中から單に交渉団や執行委員を選ぶだけではダメで、職場、職場に左翼の分子——レフトをつくつてゆき、発言や、かけ引きの運動方針をきつちり指導してゆく態勢をつくつた。浜松争議や野田工争議が長びき大争議になつたのは、結果はあまりよくなかったが、この他の理由として田舎で、若い百姓出身者が多く純然たる労働者でなかつた点もあらわれるのでないかと思う。その後共産党は大きな争議をどんどん処理していくので、総同盟はだんだん影がうすくなり、評議会の方が活発な活動をやり出した。

と国際的政治的活動がながり

第13回(2月)例会案内

参加費	一名 三〇〇円（茶菓費共）
本会結成一周年記念の研究例会です。名数ご出席下さい。	
堀 芳次郎氏	元日本農民組合京都連合会活動家
テーマ ゲスト	京都市職員会館「かもかわ」 「昭和初期の農民運動」について 河原町東入る 中京区竹屋町通

京都の民主運動史を語る会

三

第13回(2月)例会案		
と こ ろ	二月十四 日	中京区竹
ゲ ス ト	堺 芳次	京都市職
参加費	元日本農	
数名	「昭和初 本会結成一周年 出席下さい」	

○円（茶菓費共）  
念の研究例会です。多  
組合京都連合会活動家  
町通 河原町東入る  
会館「かもかわ」  
の農民運動について  
京都の民主運動史を語る会  
させられた。これで息のねをとめた上  
うに支配階級は思うのだけれど、しかし  
し弾圧をうけても共産党は再建された  
治安維持法はついに死刑法にまで改悪  
され、これの撤廃、共産党的正當性を  
主張して闘った山宣さんはそのとき犠  
牲になつた。  
東京だけは三・一五、中間、四・一  
六の共産党被告は十二人で法廷委員を  
つくり、左翼文献も差入れさせ、佐野  
は党全体について、市川正一は党史、  
徳田は青年運動という具合に分担をき  
め、統一公判を開いた。関西では翌年  
二月に公判はすんでいる。  
私個人の予審についていえば、当時  
党中央委員で執行部にいた佐野文雄  
によつて私についての党関係のすべて  
のことがしゃべられていたので、やむ  
なく承認した。  
以上、要するに労働組合－この労働  
者の生存権の保障たるべきものが、大  
正末期～昭和の初期にかけては法律で  
現在のように認められず、果敢な闘い  
となつたわけです。（文責 井垣次光）

◇ 年賀だより ◇

## 水田でエサ稻を作ろう

### 鳥取 足鹿 覚

新年の御挨拶、新しい年を迎えるましたが、皆様御障りないでしょうか、私もどもまず／＼越年しました。それでも昨年は低温、長雨と、戦後最大の凶作となりました。農家の皆様は固わり地方の商店や中小企業で働く方々にとっても苦しい年でしようが共に頑張りましよう。

私は一昨年から水田を潰す減反はやめ、水田の多目的利用の運動を盟友とともに取組み、エサ稻（アルボリオJ・I・その他の）の実験田を県下十ヶ所に設置し、その内アルボリオJ・I・IIは反当、〇〇二キロ、全国第二位の成果を挙げました。今度、アルボリオJの第一人者小室秀俊氏が新しく発表されたアルボリオJ-10と併せて普及のため努力致す所存であります。昨年の凶作で飯米や種糲もない地方もあるのに減反が発表され、六七万七千ヘクタールの大巾のものです。

吾々は水田にエサ稻を植付けることにより減反の目的を達することができるので、この水田の多目的利用こそ、農家を減反から救う唯一の道だと確信を砂します。（下略）エサ稻に関する資料は申越により送ります。

（米子市灘町三一—三二二）

# 戦前「産労」での活動と

## 戦後党再建の思い出

労働運動史研究家 緑屋寿雄氏から

「語る会」は一月五日、たまたま、新年で帰省された京都出身の労働運動史研究家緑屋寿雄氏を招く機会を得、例会としてではなく、出席可能なもの数人で、標記のテーマで談話を聴くことができました。

出席者は、井上秀雄、北牧孝三、山田幸次、井垣次光以上話題の他に、緑屋氏と早稲田大学同窓で、同時代、大道俊さんの六人でした。場所は府庁に近い千石ビル三階、時間は午後二時半四時の予定でしたが、開始時間が遅れたのと、午後四時半からグランド・ホテルで其産党京都府委員会の新年祝賀会が催されることになっていたので、談話の内容は約一時間でした。

最初、関西で大検挙のあった八・二六事件（昭、六）、九・三事件（昭、七）当時、共に闘って苦労された、緑屋平田、大道の三氏は久しぶりの会合だったので大分話に花が咲いていました。

標記の戦後、のテーマにつきましては、日本共産党創立五十周年の京都府党記念事業の一環として、緑屋氏は前者については「京都民報」に三回にわたり、四百字結原稿用紙で合計約三十枚の同標題「思い出」を連載され

ており、後者については、同じ「京都民報」社編「近代京都の足跡」シリーズに、同標題の「活動」を同原稿用紙で約十五枚掲載されています。

今回の約一時間にわたる同氏の談話については全部テープ・レコードに収録していますが、二、三の点を除きこれらの資料と殆んど同一の内容なのでテープを起こすことは、今回は、重複しあまり意味がないことで、内容は非常にリアルに書かれておりこれら

のテーマにつき興味のある方は、「京都民報」社に交渉され閲読されることをおすすめします。

また、最近、「安井信雄小伝」編集委員会によつて「安井信雄小伝」が発行され、その中の「思い出」の項に緑屋氏は、前者との関連記事として△鯛信雄先生の思い出——Vを寄稿され、更に小柳津恒氏もその中にへ安井信雄先生の功績を拾つてVと題して、これ——安井先生の思い出——Vを寄稿されています。

ただ、緑屋氏の京都への復員は一九四五年（昭、廿）十月廿八日なので、復員直前の十月廿一日、京都では徳田球一、黒木重徳、竹中恒三郎氏らを迎えて新聞会館で「解放運動犠牲者出獄歓迎大会」が開かれ、黒木氏は「人民

解放連盟」の結成を呼びかけ、安井信雄氏が結成された人民解放連盟の役員となり政治的実践活動にも乗り出すようになることには当然触れられています。

緑屋氏の扱つておられる前者の期間は同氏の京都への復員から翌年二月までの期間であります。

京都の人民解放連盟、——京都の民統の資料については「安井信雄小伝」や小柳恒著「京都民統の思い出」（昭、廿四以降）が参考になると思います。

日本共産党京都府党の再建については、単なる「思い出」ではなく、ローカル党の正確な党史として厳密な検討をする事項であることは言うまでもありません。

高台寺下の下河原の『旅館』のような会合場所にて、昭和二十年十二月か翌年の初め頃、党中央から統制委員として山辺健太郎氏が出席、小松雄一郎、緑屋寿雄、小林為太郎、安田徳太郎、細川三酉、岡本秀一、若杉光夫氏ら十四人が集まり、山辺氏より、これまでの戦後、京都の党组织なるものは一応解散を命ずる。もう一度選挙をして、小松と緑屋と若杉が常任書記で、事務所は緑屋宅の二階で、他の人は合ひつたので大分話に花が咲いていました。

最初、関西で大検挙のあった八・二六事件（昭、六）、九・三事件（昭、七）当時、共に闘つて苦労された、緑屋平田、大道の三氏は久しぶりの会合だったので大分話に花が咲いていました。

正式に京都府党再建のためのオルグとして派遣され、春日氏は、小松、緑屋善太郎氏らを呼び出し、彼らを中心にして京都府党をつくることになり、同氏はそれから一度中央に帰り、同年九月初めには九州の党再建のため派遣されています。

緑屋氏は東京にゆき映画関係の仕事を専心やることが承認され（滋賀も、和歌山ゆきもとりやめになった。といつておられた。）敗戦後、党中央より、大衆活動について禁足を命ぜられていた三田村四郎など禁足を破り、宇治の花屋敷や他にも盛んに出入し、党の分裂を策動していましたことも考えられ、小松、緑屋氏らの転任についても、思い半ばに過ぎるものがあることは第三者にとって、察しられる。

いずれにしても、京都府党の再建の出発は、中央の認めた河田、谷口らが中心に組織されたときから、小松のときから、これは今後、検討を要する課題であろう。

なお、産労（日本産業労働調査所）は、大正十三年、当時の日本労働総同盟の援助で、日本における産業労働事情を科学的に調査研究するために、野坂参三氏を中心に設立された。関西支所は三一五事件で村山藤四郎、木下半次氏らの検挙で閉鎖されたが、昭和五年、緑屋寿雄・色川善助氏らによつて再建、復活された。

（文責・井垣次光）

原 營

私が全国漁業協同組合を辞めて、産業組合青年連盟全国連合に参加したのは、昭和十五年九月だった。  
漁村青年運動で接触が深まったのと、産業組合（現在の農協の前身）関係にいた学生運動での親しい先輩や仲間がいたからである。

(1)

産青連の思い出

山田幸次

産青連全国連合は、昭和六年四月すでに各府県でさきまでの形で活動して、いる産青連運動の中央指導部として結成された。その目的は、第一に、昭和四年以来の農業恐慌をきりぬけるために、農村再生運動の主役にされた産業組合の、使命達成の先頭に立つことであった。また第二は、農林省のテコ入によつて、農村の流通機構を席捲しつつあつた産業組合の購買、販売事業に対する、米・麦・肥料、農機具などの業者団体の反産運動に対し、産業組合を擁護し、発展させることであった。

の業者団体の反産運動に対し、産業組合を擁護し、発展させることであった。このため産青連は、農村青年や若い組合員三十万の盟友（昭和十年）を動員し、協同組合意識の高揚による系統利用の強化、機関誌「家の光」の普及、救農土木事業の実現、産業組合への課税阻止などで奮闘した。農村協同化の推進、産業組合の発展の上で大きな役割を果した。

政治的にも混乱していく。というのが當時の状態であった。

ただ、この中でも産青連全国連合は尚意氣軒高たるものがあつた。当時の全国連合の幹事は、私を入れて六名、四名は地方の産青連活動の経験者だが一人は全農全会派の農民運動の幹部、あとは学生運動という顔ぶれである。一致点は、中貧農の立場で農村問題を考えるということと、農村を含めて日本の社会経済は根本的に変らねばならない、ということであった。会長は元農林大臣で、初期の翼賛運動の立役者であつた有馬頼寧氏だったが、大政翼賛会、翼賛社年団にはいづれも批判的で、産青連はあくまで職能別組織として自主的立場を貫くべきだと考えた。

まづ最初に驚いたのは他の幹事諸君の農民的な自由な語り口であった。私が参加した当時の産青連は、農繁期の共同炊事や共同託児などを含め、農村生活全体の共同化を推進する協同報国運動を実施中であった。私は高橋幹事長（後に島根県の経済連の会長、大東町長）とともに、岐阜県の農村講習会はじめて参加したが、彼は演壇に上るとさっそく渋い声で浪花節を語りはじめた。「佐倉義民伝」だったが、「小林多喜二とその母」だったか忘れたが、まづ一席終ったあと、滔々と協同化必要論を説きだした。

すでに日本農民組合は解散させられ農村の大衆組織として残っているのは農青連だけだった。さまざまな組織が

控えて、重要物資の配給、価格統制が全面的に強められ、産業組合は米の割当て供出など、政府の出先機関的な性格が顕著になつた。「協同組合運動の実践的批判者」を自負する産青連との溝はだんだん深くなり、組合からの物心両面の援助も漸次うち切られてくる。それと共に産青連活動も多くの府県で

報國運動、翼賛運動などを、国民服の販売や、地方組織のカンパなどで食つなぎながら展開した。

しかし、昭和十七年三月、翼賛社団への合流を拒否しているということとで警視庁に呼び出され、解散を命ぜられた。以下にこの間の思い出の一、二をつけ加えておきたい。(全国連合会議)

況を聞かれたこともあつた。  
昭和十六年四月には、いわゆる企画院事件がデツチあげられ、勝間田清一和田博雄氏らが逮捕された。二人はともに産青連の参与だつたが、彼らから聞けば、産青連も「日本農村のコルホーメ化を目指すもの」として、追求点の一つになつていたそうである。

は、1) 農村における国民組織の確立、

論じた経験がある

すでに日本農民組合は解散させられた。農村の大衆組織として残っているのは、産青連だけだった。さまざまな組織から、活発な働きかけがあった。当時翼賛運動にもつとも熱心だった社会大衆党（現在の社会党・民社党の前身）の龟井貫一郎代議士もその一人であった。私も一度他の幹部とともに、彼の豪邸を訪ねた。そこには、大政翼賛論を一緒に書いた新邸宅に招かれ、大政翼賛論を一緒に書いた

一、若き力めさめて萌ゆる全土より、聴けはつらつと山野に喚ばう、眞実の声・産・青・連。  
二、燃ゆる心郷土に起らて、今盟友の志気堅し、祝よさゝそうと朝日に躍る  
　　我們の旗幟・産・青・連。  
三、共に仰ぐ希望の高嶺  
　　かん嶺近し、ああ玲ろうと青空晴れ  
て、輝く行く手・産・青・連。

(資料)

(資料)  
産・青・連の歌

— ソ連見聞記 (IV) —

## ソ連経済の動向

岡 谷 元 治

○  
昨年十月末に開催されたソ連最高会議では第十次五ヵ年計画の成果と問題点が総括され、今年から始まる第十一五ヵ年計画大綱の予備討議が行われたと言う。

もとより経済問題は極めて複雑であり慎重な検討を必要とするが、日本の各新聞で伝えられた論調に従って簡単なスケッチを試みるなら次の様になるであろう。

○  
ゴスプラン（国家計画委員会）議長バイバコフの報告によると、一九八〇年度の国民所得は前年比三・八%増であつたが計画よりは〇・二%減に終つた。工業生産も前年比では四%増加したもの、目標より〇・五%低いし、年度の国民所得は前年比三・八%増であつたが計画より四千万トンの減収であった。工業生産も前年比では四%増加したもの、目標より〇・五%低いし、農業生産は始めて二百万トンを超過したが、これも計画より四千万トンの減収であった。第十次五ヵ年計画期には天候不順が続いて、比較的良好だったのは七六年と七八年の二回だけ、後の三年は容易ならぬ年であった。一般に農業生産は気候に左右され易いが、今期は特に恵まれなかつたのである。

第十次五ヵ年計画では前回の第九次五ヵ年計画と比較すると国民生産額は三・九七〇億ルーブル、工業生産額では七・一七〇億ルーブル、農業生産額は五〇〇億ルーブルと、それぞれ增加

しているが、年度別の成長率は通減している。その故か、八一年度の経済目標は工業生産で四・一%（八〇年度は四・五%）、農業生産では七・五%（八〇年度は八・八%）と控え目に押えて

昭和十二年十一月八日早朝、五人の特高が来て私を下鴨署に連行した。来るものが来たという感じであった。折角ここまで育て上げた「土曜日」もこれで終りだと思った。

○  
洗面の折、「学生評論」の草野氏もやられて来ているのを知つた。いづれ能勢さん、中井さん達もやられたであろうことは想像される。被害の少いことを願つておられるが、どの程度まで、警察の手のがびた

その反面、消費財部門の成長率を生

産財部門より優先させ、社会福祉とく

に教育、年金・医療の充実と食料供給

の増量に意を注いでいるのが特長であ

る。

日本ではソ連脅威論を強調する中で軍備拡大が計られているのに対し、八年のソ連国防費は昨年に引き続きながらも削減されているのは注目に値する。

い。

その反面、消費財部門の成長率を生

産財部門より優先させ、社会福祉とく

に教育、年金・医療の充実と食料供給

の増量に意を注いでいるのが特長であ

る。

○  
「土曜日」を出す動機についても聞かれた。下加茂の下積生活から抜け出

したいので「京都スタヂオ通信」の發行を思いついた。映画関係だけの新聞

では商業的に弱いので、一般的の記事も書く文化新聞的なものに広げるため

書く文化新聞的なものに広げるため

\*隨筆

## 踏みきり台 (6)

## 住谷悦治

(1) スポーツの走り幅飛びやジャンプ飛を見ていると、スポーツマンにとって踏み切り台が如何に大切なものが、踏み切り台の片足にこめた全力が如何に決勝に關係がある重要なものであるかということが、スポーツの素人目から見てもわかる。そこでちょっと失敗すればその競技では負けと相場がきまっている。踏み切りの片足にこめた全力量は観る人の胸に迫ってくる。審判者や専門スポーツマンは言わずもがな、素人観衆にとっても重要な注目的なことはテレビで見てさえも、審判者やその道の人びとの熱い眼への注視で判断できることである。

踏み切り台はスポーツマンの決定的な土台である。勝敗はスポーツマンの最後の踏み切り台における一步で決まると言つても差支えあるまい。スポーツマンの練習を見ても踏み切り台、最後の踏み切りの一歩が勝敗の運命の決定点であることは分明する。いきついスポーツの出発点は踏み切りの一歩に懸つているとも言えよう。

(2) われわれ普通の人間の生涯においても、その運命の決定的勝負はその人の踏み切りに全力が集中されているか否かにかかわっているといつてもよいで

ある。先人達人の修業へ的人生的訓言もその多くは出発点の踏み切りについての心懸けの如何に懸つているようである。始めは終りであり終りは始めに懸つている。後悔先きに立たずといふ訓言もそのことに懸つているであろう。踏み切り台での一歩こそが運命の分かれ目であるともいえよう。その踏み切り台への全力の集中を野球のみでなくスポーツでは全力投球などと言つている。

スポーツマンの練習を見ているとそ

## 高橋松藏氏を悼む

京都における民医連の長老として永年間活動された左京区下鴨西高木町二七在住の高橋松藏氏は、昨年末以来病氣で自宅療養中のところ、一月三十一日午前九時、脳溢血のため永眠された享年七十五歳、謹んでお悔み申します。

高橋さんは一九〇六年新潟県に生れ、昭和四年京大医学部を卒業後、同大学理学部動物学講師として研究の側ら、左京区養正隣保館において太田典礼、杉山茂氏らと共に無産者診療所を開設し、無産部落民に対する診療活動を、戦前、戦後を通じ、二十数年間つづけられ、戦後、北区紫野診療所所長として、現在の「北病院」の基礎を作られた。

の重要な点と察せられる踏み切りに如何に周到な心構えをしているかが見ていても胸の痛くなるような覚えがある。スポーツにかぎらず人間の一生においても踏み切りが第一歩の決定点である。そこをしくじったらそれだけ負けであると覚悟せねばなるまい。

(3) ランニングにおいても「用意!」「ドン!」が本人たちにはもちろん、観る人びとにも集中的な眼の熱が窺われる。スポーツにはやり直しもあるが人生の競争ではやり直しは頗る困難である。もちろん訓言としては、「人一度してこれをよくすれば己れこれを十度す。」わば出発点における踏み切りは大切である。人十度してこれをよくすれば己れこれを百度すという。百度も千度もある。それほど出発点は大切である。いざかん薬房の顧問として、指導協力された。

高橋さんは多年にわたる研究の結果アレルギー性疾患に著効のある「ミノファーゲン」を創成し、現在ミノファーゲン薬房の顧問として、指導協力された。

葬儀は二月二日午後一時から自宅において「ミノファーゲン社」の社葬とおいて「ミノファーゲン社」の社葬として當まれ、故人を偲ぶ友人、知己の方々が参列盛大に行われた。

(4) 尚高橋さんは、京都における民主運動の先達として活動され、市内在住の著名な文化人の集りである「京都文化人懇談会(愚談会)」の有力メンバーとして多くの方から親しまれ、なお、

重荷を負うて遠きを歩んで来たことは、家庭の訓言その他の先人の教えを無視したわけではなく、人生の事実、そして与えられた社会と環境の圧力への対応力の自分の力の限界を示したものだと観念している。ゆめ意識的に自分の怠慢であったわけではないということを教えて公言して自から秘やかな満足を覚えるのはかはしない。これが長き人生の実相である。



# 人 生 と 歷 史 に 想 う

## 三〇年ひとくぎり

田 尻 博

一

『京都民主運動史を語る会』に入会いたしましたのは昨年秋であります。私は運動を語るなどという資格は全然ありませんし、諸先輩のすぐれた経験を会誌『燎原』で拝見し、ただただ感に打たれている次第です。私の入会の主な理由は、先輩のご苦労、経験がストレートに若い人達に理解されないかも知れないとき、私のような大正の末期に生れた者が介在して補足説明を加えればと思ったこと、と同時に何はともあれ先輩のお話しがぢかに聞けるということがあります。とはいひ入会以来未だ一度も例会に出席できなくて弱つてあります。と申しますのは五年前から始めました資本論の一行読みのゼミが第一、第三土曜日で、それにからあつてゐるからです。今後は何か諸先輩の聲咳に接したいと思うものです。

ところで人間は三十年が一つの区切りといえます。三十にして立つ、自立の年から三十年間は人間が第一線で活動する壯年の時期と一般的に言えましょう。そして六十才、還暦を迎えて第一線から第二線に引込むというのが通常の姿であり、それからの三十年間に人間は概ね命を終えてしまう。勿論例外も多々あります。普通はこのようないものではないでしょう。この三十年交代説を歴史にあてはめてみましょう。とくに日本資本主義が

興隆はじめた一九〇〇年からながめてみると次のように概括できるでしよう。一九〇〇年は日清戦争(一八九四・五年)で勝利した新興日本資本主義の、本源的蓄積の強行を絶対主義的天皇制の庇護下ですすめられた年代でした。そして三〇年後の一九三〇年、日本資本主義は昭和の大恐慌に直面しガタガタになります。これが脱出の道は二年前の一九二八・三・一五事件、四・一大弾圧であり、一九三一年にはじまる中国侵略(満州事変)であります。

かくて十五年戦争がはじまり、その結果は無条件降伏の敗北で終り、新生日本が生れたかにみえましたが、アメリカ帝国主義の占領支配は複雑な経路を経て、一九六〇年を迎えます。この年は平和と独立と民主主義を求める日本国民の総決起ともいいうべき六〇年安保闘争は全世界を震驚させました。それはどこで人間が第一線で活躍する壯年の時期と一般的に言えましょう。勿論例外も多々あります。普通はこのようないものではないでしょう。このようにして二〇世紀最後の三〇年、一九九〇年を前にしています。歴史

史の教うるところは当然の如く、この八〇年代は激動の時代となるでしょう。こうしたときこそ『知が力』となるよう老若あげの取組みが求められています。かかるに思います。

さて開ってこられた『語る会』の諸先輩の話は今日ほど貴重なときはないで

しょう。一九六〇年の安保を開つたとき私は三十六才でありましたが、三〇年と六〇年とを正しく分析して若い人々に語り継ぐことは私にとって大切な任務でもあると思います。いずれにせよ一九九〇年から二十一世紀にむけて、諸先輩のすぐれた経験をもとに、歴史を切りひらいていくところに『語る会』の基本的使命があると思っています。

(元、全損保京都地協議長、現、未組織労働者互助共済制度設立委員)

### 誤字訂正のお願い

昨年十一月十五日発行の第九号に掲載された私の「仏教と科学的社会主义」の話の中で、次のような誤りがありましたのでご訂正をお願いします。

第三ページ三段目末尾から三行目と、同末尾の一一行目、そして四段七行目に載された私の「仏教と科学的社会主义」の話の中で、次のような誤りがありましたのでご訂正をお願いします。

そんな中で、洛北岩倉に借地ながら一軒の藁ぶき屋根の家屋を友人が破格の安値でゆずつてくれ、そこに静養の場を得たのは思わず恵みであった。僅かながら前庭が耕地で野菜作りがたのしかった。馬鈴薯、トマト、エンズウ、大根等々、季節毎に変化する作物への対応は健康恢復に拍車をかけてくれた。しかし反面、手弁当で旧市内へ小商売の適地探しに明け暮れしてくれた女房にとっては苦難の時代であり、この時代は長かった。

（未完）

(前頁のつづき)

絶対反対の応援を求めてきた。下鴨では臨時大会で東宝のたかう兄弟を援助する決議をし、会社側にその旨通告した。当然のことながら、私はこの阻止行動の先頭に立った。

(4)

(清水寺・福岡精道)

## 紀元節の思い出

### 兼定テイ

二月十一日を「建国記念日」とし、

総理大臣以下揃つて靖国神社に参拝して、昔の「紀元節」を復活させようと

している。私は小学校時代の「紀元節」を思い浮べて、軍国主義に逆戻りしつある現状を嘆かしく思う。

戦前は四大節といって、元日、紀元節(二月十一日)天長節(四月二十九日)天皇誕生日)明治節(十一月三日)があり、これらの中には日本中のすべての学校で、同じ式次第で式典が行なわれました。式の前日には厳しい稽古があつて、顔を見合わせて笑つたり冗談をすることはもつてのほかのことであり、鼻をすりあげてもきつく叱られた。式の当日は、よそゆきの服で威儀を正し、便所に行き、鼻をよくよくかんで式場

送ります。お納め下さい。

(左京区岡崎真如堂前三)

「雲にそびゆる高千穂の草も木もなびきふしけん大御世を仰ぐ今日こそ樂しけれ」

### 入会申込み

#### 近藤一男

明治三九年六月二一日生れ、七四才

### 新規会員登録

毎月「燎原」をご送附頂き、敬愛する諸先輩の新しい形態の「偉業」に感服しています。

十五年戦争の始まる年に生まれ、戦後朝鮮戦争の終る年

に社会に出てから平和・民主運動に参加しました。

最近は昨年まで京都私教連委員を四年位勤め今年発足の京都平民懇で事務局長を仰せつかっております。どうぞよろしく

私は昭和四年創立の京都家庭消費組合の常務者より駆け出し、京都プロ消、京都消費組合で働き、昭和八年五月上京して、関東消費組合の再建、創立に夫婦で活動し、昭和十七年より保育園経営に従事して今日に至る。会費は振替貯金口座へ払込み済み。

に臨んだものである。

式は御真影(天皇皇后の写真)の前の白い幕をするくとおもむろに上げることから始まり、君が代齊唱、教育勅語奉説、講話、紀元節の歌齊唱、そして幕をするすると下ろすことで終るのであるが、その幕の上げ下げの間と教育勅語奉説の間は、じつと頭を下げているのである。前日の練習が効を奏して、本当に静かにおごそかに行われたのである。あとで貰える紅白のまんじゅうを楽しみにしながら、約一時間の式典を一年から六年までの子ども達はじつと我慢したのである。

「雲にそびゆる高千穂の草も木もなびきふしけん大御世を仰ぐ今日こそ樂しけれ」

### ふとん

#### 西村清三

特高のしつこい追求をさせて、組織維持发展をはかるためには私の身をかくし街頭連絡で運動をつづけることになる。昭和八年三月初旬、全協京都地協の再建をたたかっていいるときで、わたしは父の死にもあえず、長男だが

わたしは父の死にもあえず、長男だが葬儀にもでられなかつた。當時わたしはふと思いついたようであのおふとんなアという。蒲團の略歴である。去年、新興キネマのストの時籠城した争議団の二階にあつたものの一つで、Aさんが使っていた。かれの肺患はかなりすすみ、よく咯血したらしい。發熱しながら最後まで頑ばつた。當時わたしも全協一般労組にて共闘したのだが現場はよく知らないものの病人のことはきいていた。

さらに、彼女は続けた。あのおふとんに血痕が残っているはずだという。それでわかつた。頭をおくあたりに親指大の黒っぽい糊のようなものが二つ、ひついたようにこびりついているのだった。

ふともにも見事な戦歴があつた。  
(一九八一・二・六丁)

紀元節の歌を学校で歌わなくなつて三十六年たつた今も、思い出と言われた時簡単に口をついて出てくるのだから、余程練習をされたに違いない。

校長先生のお話もこの歌詞のような意味であったに違いない。子ども心に世界中で一番立派な国だと思つたのだから……。

戦後は紀元節と同じ日を「建国記念の日」とした。「建国をしのび國を愛する心を養う日」ということだそうだが、なにをもって建国というのであるか。私達の年代のものは天皇中心の歴史を習つて來た。二月十一日は神武天皇の即位の日でしかない。当の建国はアメリカの基地が日本からなくなり真の独立を勝ちとつたときであろう。

Aさんに連絡あつたとき、何ぞないやろか。ときくと彼女もいまの下宿を借りてひと月たつ。危のうなつてきているので明日かわる予定。ちょうどえわ、敷蒲團だけならあげまつさ、といつてくれた。助かった。さっそく銀閣寺電停でうことにした日の夕ぐれ彼女の下宿へ案内された。何だ、こんな近くにいたのかとわらつた。川に沿った家のそとで待つていると、警戒して消灯した二階の表障子があいてAさんの顔が白くのぞき、ええか、ほるえ、とばかり道路へどたりとおちるのをすればやく抱きかかえ、消費組合で借りた三輪車の荷台にのせた。三輪のペタルをぶみながら、花袋の「蒲團」をおもいだした。

やつとできたが、一枚で、柏だ。それでもありがたかった。そして、何日たつたか。会議のあとの雑談で、Aさんはふと思いついたようであのおふとんなアという。蒲團の略歴である。去年、新興キネマのストの時籠城した争議団の二階にあつたものの一つで、Aさんが使っていた。かれの肺患はかなりすすみ、よく咯血したらしい。發熱しながら最後まで頑ばつた。當時わたしも全協一般労組にて共闘したのだが現場はよく知らないものの病人のことはきいていた。